

茗溪賞受賞者紹介

(順不同・敬称略)

団 体

ふるさとつくば ゆいまつり実行委員会 (代表学生 中川沙羅葉) (茨城県)

筑波大学生とつくば市民のつながりを深めることを目的として地域の祭りを企画・運営し地域の活性化のために貢献している。

彩の会 (代表 岡田一枝) (茨城県)

多年にわたり機織り教室を主宰し、広く技術の伝承を行うとともに昔の人たちの知恵や家族を思う気持ち、また、物を大切にすることを若い世代にも伝えるための実践に尽力している。

埼玉県立所沢西高等学校

被災地ボランティア実行委員会 (代表生徒 本間 徹 玉田尚子) (埼玉県)

東日本大震災の被害に遭った福島県立いわき海星高等学校のために、現地での瓦礫の撤去作業などの支援に努めるとともに、選抜高校野球大会においても吹奏楽部の演奏などにより両校の交流を深める活動をしている。

NPO 法人 川越きもの散歩 (代表 藤井美登利) (埼玉県)

多年にわたり、小江戸と呼ばれる川越を着物が似合う街にするための活動を実践し、川越が守る織物文化の伝承にも努め、地域社会に貢献している。

神奈川工科大学

防犯ボランティアサークル KAIT BLUE (代表学生 板橋幸音) (神奈川県)

若い世代の地域における自主防犯活動が減少する中で、学生・地域住民・警察が一体となって地域における自主防犯活動を推進し若者の防犯意識の高揚に貢献している。

筑波大学大学院生

大学の教育・研究活動の内容を一般社会人や教育関係者、児童生徒等に分かりやすく伝えるアウトリーチ活動等に従事し、筑波大学の教育・研究活動を広く社会へ発信するなど、大学院における勉学や研究の成果を生かした顕著な社会貢献活動を行っている。

個人

鈴木 昭重

(埼玉県)

父と兄が作製した昭和39年の東京オリンピックで使用した聖火台を大会終了後から継続して磨くなど多年にわたり保存活動に努めている。

山地 和家子

(大阪府)

多年にわたりミャンマーにおいて障害を持っている多くの人々を対象とした洋裁指導をボランティアで実践し、ミャンマーの障害者の洋裁技術の向上に努めている。

橘 斌 ・ 橘 満

(福島県)

東日本大震災により長い歴史のある「相馬野馬追」に使用する甲冑修繕の職人不足の中、兄弟が協力して鎧製作や修繕を行い、貴重な伝統文化の継承に努めている。

川口 幸男

(埼玉県)

東日本大震災の被災地の仮設住宅集会場に蓄音機を持ち込み、被災地で引きこもりがちな高齢者に数々の懐かしい曲を聞かせ、被災者の方々を勇気づけている。

和家 寛治

(愛媛県)

多年にわたり小・中・高等学校における小倉百人一首かるたの出前授業や地域における読み手指導者育成など、かるた文化の魅力を広く普及・発展させることに努めている。